基幹センター地域支援課活動報告

基幹センター地域支援課（以下、当課）の2021年度の東日本大震災による被災地域での活動は、塩釜保健所岩沼支所管内の名取市、亘理町、山元町と塩釜保健所管内の塩竈市であった。

また、2020年２月から令和元年台風19号により被災した丸森町への支援を県から依頼され行ってきたが、2021年度も継続し、活動地域は２市３町となった。

主な活動について事業に沿って報告する。

【地域住民支援事業】

１．個別支援

（１）健康調査ハイリスク者などへの継続支援

当課で対応してきた被災者健康調査ハイリスク者などへの継続支援は、2019年度から徐々に市町の通常支援での対応へと引継ぎを行ってきた。市町への引継ぎは、まずケース検討会を行った後、市町担当者と共同訪問をし、徐々に市町担当者のみでの支援に移行する、という形で進めてきた。2021年度に当課のみで支援をしたのは、希死念慮やPTSD、精神疾患疑いのある方数名であった。中には引継ぎに時間を要する場合もあり（引きこもりや希死念慮のあるケース）、2022年度も共同訪問が必要なケースもある。

また、丸森町でも同様の流れで2021年度末までに、当課単独で支援していたすべてのケースを丸森町担当者に引き継いだ。

２．地域住民交流事業

（１）うつくしまサロン

福島県から東日本大震災を契機として宮城県仙南地域に転居された方を対象とした「うつくしまサロン」を実施した。福島県内の状況や転居先の情報交換、同郷の仲間同士の交流の場として継続してきたが、月１回の定期開催のところ、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響により会場変更や中止となった時期もあった。実施時も感染予防に注意し１時間程度の内容とした。サロンとは別に希望するメンバー同士が個別で交流の機会を持つケースなどもみられるようになった。

今年度の活動実績を表１に示す。

ラジオ体操

スノードーム作り

表１　地域住民交流事業（うつくしまサロン）

開催地	実施日	内　　容	参加者
岩沼市	2021/７/16	健康紙芝居～ストレスと血圧～	９名
	2021/10/15	アロマオイルによるルームスプレー作り	７名
	2021/11/19	チーム対抗クイズ大会	４名
	2021/12/10	スノードーム作り	13名
	2022/１/21	新春クイズ大会	６名

※13：30 ～ 14：30の開催で、後半の30分はフリートークの時間にした

【支援者支援事業】

１．支援者コンサルテーション事業

名取市と亘理町に月２回、山元町に月１回の定期支援を行った。塩釜保健所管内については保健所からの依頼時に随時対応とし、塩竈市に２回の派遣を行った。

丸森町は台風被災後２年目であり、東日本大震災の被災市町とは必要な支援が異なっているため、支援内容については丸森町や仙南保健所と、随時検討しながら支援を実施した。

（１）事例検討会、ケースレビューにアドバイザーとして参加

①健康調査からの検討ケースは減少し、精神ケースと子育て世代のメンタル面での困難ケースの検討が中心になってきた（表２）。

表２　事例検討会などの参加回数

市町	回数
山元町	４回
亘理町	10回
名取市	９回
塩竈市	２回

②名取市からポストベンション（※１）対応の依頼を受け、精神保健福祉センターと塩釜保健所岩沼支所、名取市、当課で打合せを実施した。実際の介入は名取市が行い、その後の振り返りを精神保健福祉センターと名取市で実施した。

③丸森町では被災者健康調査の実施やその後のポピュレーションアプローチ（※２）に関する支援、被災者支援関係者会議への参加協力を行った。また、地域支え合いセンター支援員事例検討会での助言や同支援員対象の研修会での講師を担当し、支援員育成や支援者間の連携を意識した支援を行った（表３）。

表３　丸森町支援内容と参加回数

支援内容	回数
地域支え合いセンター事例検討会	８回
被災者支援関係者会議	12回
地域支え合いセンター支援員対象研修会　講師派遣 「地域保健について＜町保健師と共同で講師＞」 講話テーマ「節酒支援について」 「トラウマインフォームドケアとは」	 １回 １回 １回
被災者健康調査の実施に関する支援：打合せ	３回
仙南保健所と町との３者での打合せなど	３回

※１　ポストベンション：自殺予防は、プリベンション（事前対応）、インターベンション（危機介入）、ポストベンション（事後対応）の３段階に分類される。ポストベンションとは、不幸にして自殺（自死）が生じてしまった場合に、遺された人びとに及ぼす心理的影響を可能な限り少なくするための対策を意味する。

※２　ポピュレーションアプローチ：「ポピュレーションアプローチ」は、まだ健康障害の高リスクを抱えていない集団に働きかけ、集団全体がリスクを軽減したり病気を予防したりできるようにすることである。これに対し「ハイリスクアプローチ」とは、健康障害を引き起こす可能性のある集団の中から、より高いリスクをもっている人に対して働きかけ病気を予防することをいう。

（2）共同訪問・面談

①2021年度は、ケースの引継ぎを意識しながら市町担当者との共同訪問を主に行った。
また、新規ケースの支援依頼の場合も初めから共同訪問とした（表４）。

表４　共同訪問などの協力日数

市町	日数
名取市	８日
山元町	７日
亘理町	２日

②精神保健福祉センターからの依頼により、岩沼市でのポストベンション対応に協力した。（個別面談８件）

③丸森町の被災者健康調査ハイリスク者支援は初めから丸森町担当者と共同での訪問、面談とした（28件）。町外の民間賃貸借上住宅のケース５件は当課で対応した。

２．支援者のメンタルヘルス支援事業

丸森町でポストベンションを実施した（プレハブ仮設支援員５名の個別面談）。

３．子どものこころのケアに関わる支援者に対する支援

母子保健に関する検討会にアドバイザーとして参加した（表５）。

表５　母子保健に関する検討会などの参加回数

市町	回数
名取市	13回
亘理町	12回
山元町	５回

【普及啓発事業】

１．メンタルヘルス普及啓発促進事業

（1）健康講話

①市町からのメンタルヘルス研修会の講師依頼に対しては、直接当センターの職員が対応するのではなく、状況を確認しながら保健所や精神保健福祉センターへつなぎ、必要時には地域で対応可能な講師の情報提供をした。

②丸森町では健康調査での課題からテーマを決め、６カ所のプレハブ仮設で紙芝居を媒体としてメンタルヘルス講話を実施した。また、浸水地区からの講話の依頼２件に対応したが、講話資料などをすべて丸森町保健師と共有し、その後の講話は丸森町の保健師が実施した。

【まとめ・今後の展望と課題】

2021年度は新型コロナの拡大に伴い、各種事業の実施が延期・中止となるなど影響を受けたが、十分な感染症対策を講じながら、市町・各関係機関と連携を図り活動を行った。特に保健所は新型コロナ対応で多忙を極めており、定期的な打合せや共同での市町支援は難しい時期もあったため、市町支援の内容を随時報告するなど保健所との連携強化を意識して活動を行った。

また、2021年度はみやぎ心のケアセンター第２次運営計画スタートの年であり活動の柱が地域住民支援・支援者支援・普及啓発となった。これまでも市町支援については、センターの終了を見据え、地域精神保健活動の向上を目指した支援の在り方などを市町・保健所などと共有しながら行ってきた。例えば、事例検討会やケースレビューを、困難ケースの共有の機会や支援ネットワーク構築の機会として実施継続しやすい形

で行うことの提案や協力をしてきたことが挙げられる。さらに困難なケースは保健所や精神保健福祉センターにつなぎ、通常の相談ルートで対応・検討できるような支援を行ってきた。今後はこれまで以上に保健所、精神保健福祉センターとの情報共有や連携を意識した支援を継続していきたい。

令和元年台風19号により被災した丸森町については、東日本大震災で被災した市町支援で培ったノウハウを生かす（伝承)、仙南保健所と常に連携し、町担当者が主体的に動けるように支援する（町の主体性)、災害時には新たな部署ができるなど支援団体も多くなることから、支援機関との連携を意識しての支援を行った。丸森町への定期支援は今年度で終了したが、これらの活動を通して当課としてもこれまで行ってきた活動を整理し伝承していく必要性を感じたことから「健康調査に関する支援」「アルコール関連問題に関する支援」「普及啓発」に分類し、課独自で支援活動のまとめを行った。被災時には、迅速な対応が適切な支援につながる大切な要素と考えられるため、このまとめが今後の被災時の支援に役立つようさらに充実させていきたい。